資料２

流山市

子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査報告
概要版

Ⅰ　調査の概要

１　調査票の種類と調査対象者等

図表　調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（就学前児童用）」		
	調査対象者	就学前児童を持つ保護者
	調査件数	2,000 件
	調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、定期的な教育・保育事業の現状・利用意向、地域の子育て事業の現状・利用意向、育児休業の現状・利用意向、流山市における子育ての環境や支援等に関する設問
②調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（小学生用）」		
	調査対象者	小学校児童を持つ保護者
	調査件数	1,000 件
	調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、放課後の過ごし方、流山市における子育ての環境や支援等に関する設問

２　調査の実施方法と配布・回収状況

（１）調査時期と調査方法

調査時期：平成 25 年 11 月～12 月

調査方法：郵送方式により調査票を配布・回収

（２）調査の配布・回収状況

調査によるそれぞれの配布・回収状況は、以下のとおりです。

図表　調査票の配布・回収状況

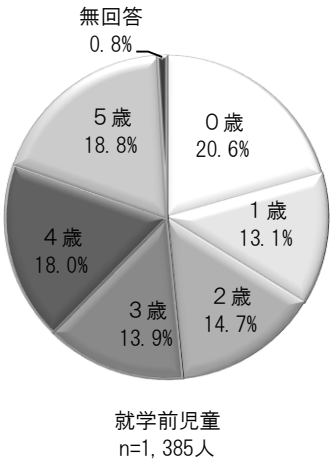
区　分	就学前児童の保護者			小学校児童の保護者		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	2,000 人	1,385 人	69.2%	1,000 人	645 人	64.5%

３　調査対象者の属性・家族状況

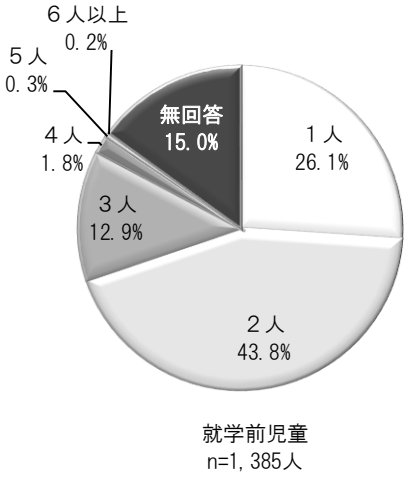
（１）就学前児童の属性

回答された 1,385 件の就学前児童の属性は、以下のとおりです。

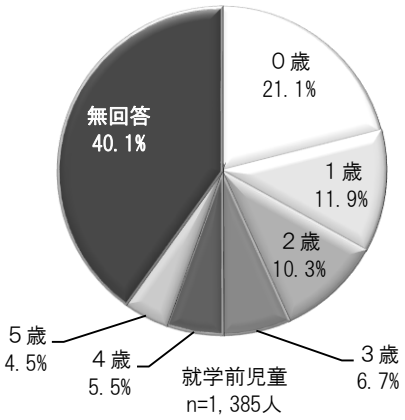
問 2　年齢



問 3　子どもの人数



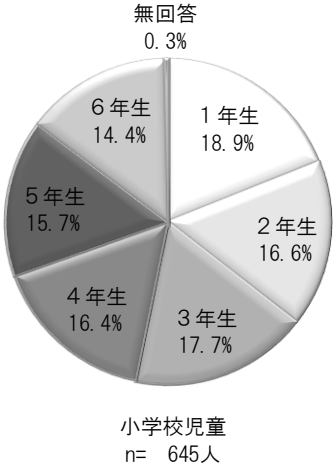
問 3.1　末子の年齢



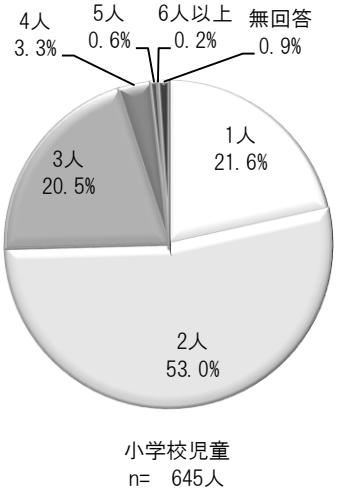
（２）小学校児童の属性

回答された 645 件の小学校児童の属性は、以下のとおりです。

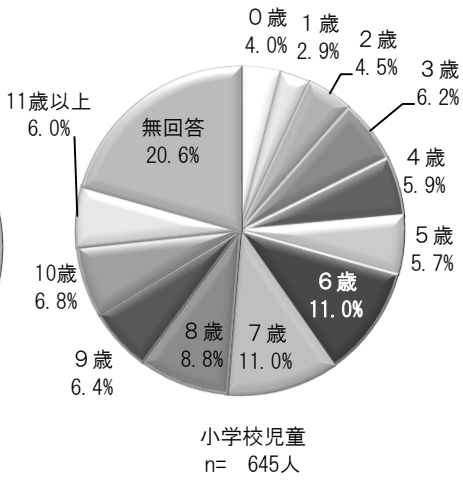
［問 2］　年齢



［問 3］　子どもの人数



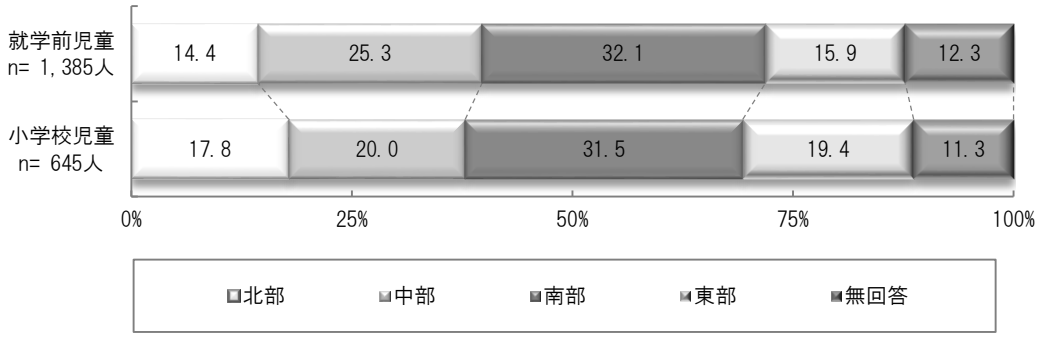
［問 3.1］　末子の年齢



（３）居住地域の状況

回答者が居住している地域の状況は、以下のとおりです。

問 1[問 1]　地域（市全域）

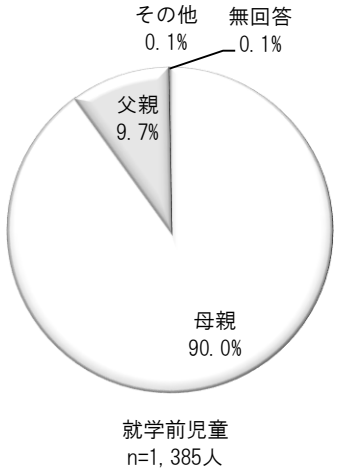


（４）調査回答者の状況と配偶者の有無

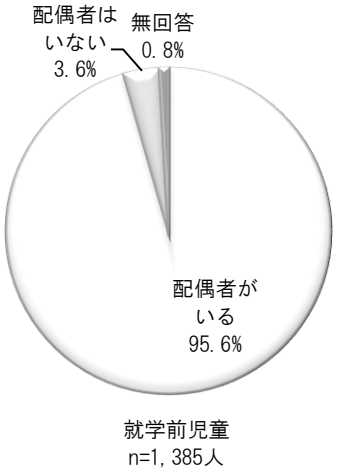
就学前児童、小学校児童ともに、調査回答者は母親が約９割となっています。

配偶者関係は就学前児童、小学校児童ともに、約９割が「配偶者がいる」と回答しています。また、主な保育者は、就学前児童は「主に母親」が約５割で「父母ともに」よりやや多くなっています。小学校児童も同様に「主に母親」が約５割となっています。

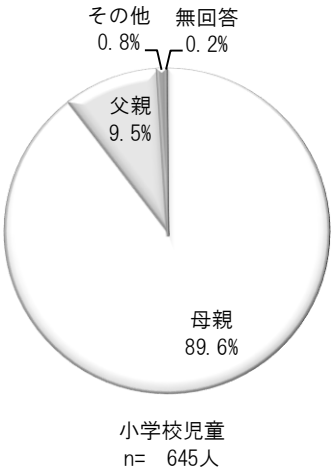
問 4　調査回答者（就学前児童）



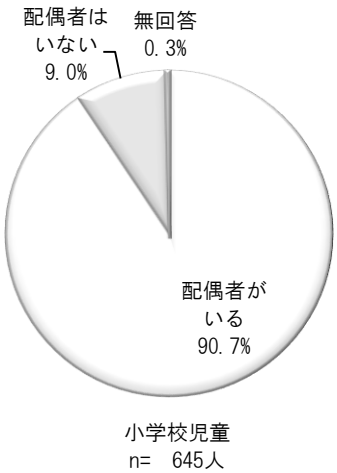
問 5　配偶者の有無（就学前児童）



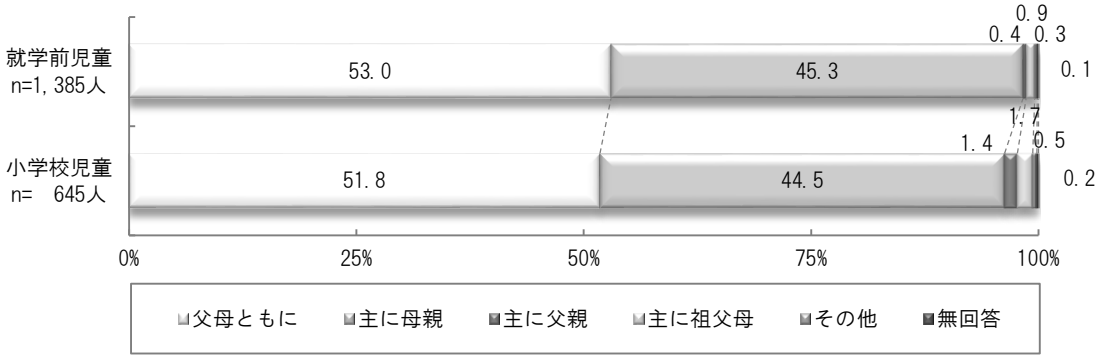
［問 4］　調査回答者（小学校児童）



［問 5］　配偶者の有無（小学校児童）



問 6　主な保育者の状況


就学前児童
n=1, 385人
53. 0
45. 3
0. 4
0. 3
0. 9
0. 1
小学校児童
n=　645人
51. 8
44. 5
1. 4
1. 7
0. 5
0. 2
0%
25%
50%
75%
100%
父母ともに
主に母親
主に父親
主に祖父母
その他
無回答

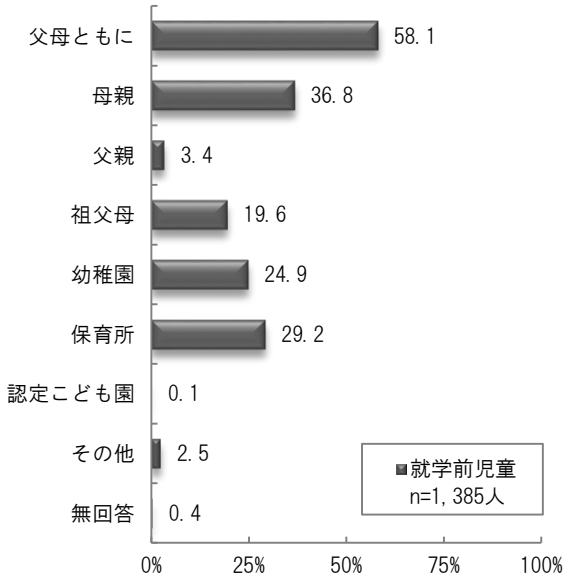
Ⅱ　調査結果

１　子育ての環境について

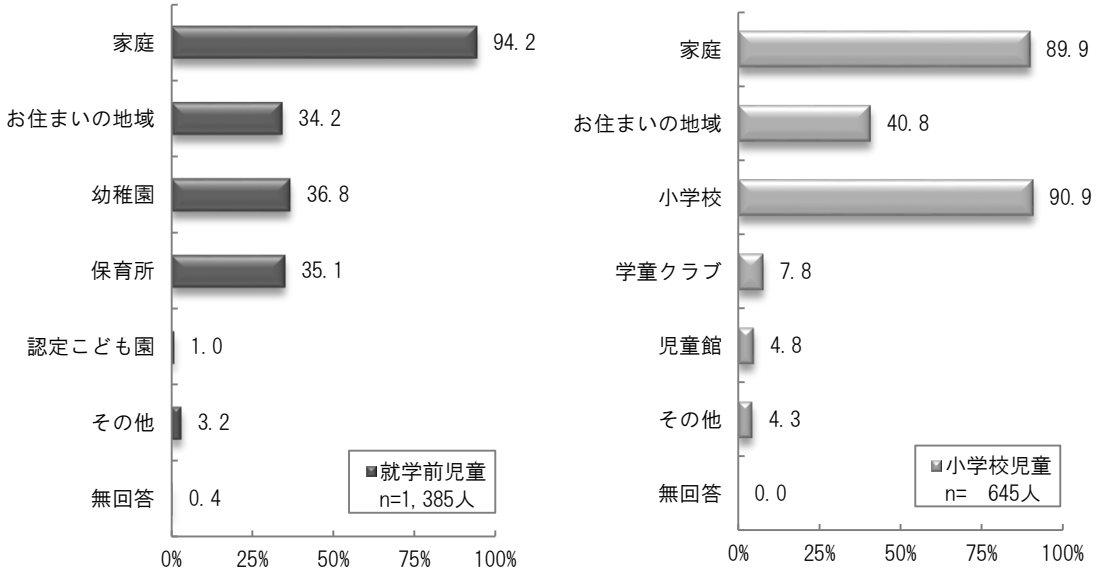
日常的に子育てに関わっている方（施設含む）は、「父母ともに」（58.1%）、「母親」（36.8%）、「保育所」（29.2%）、「幼稚園」（24.9%）の順に多くなっています。

また、子育てに影響を与える環境は、就学前児童では「家庭」（94.2%）が最も多く、次いで「幼稚園」（36.8%）、「保育所」（35.1%）、「お住まいの地域」（34.2%）の順に多くなっています。小学校児童では「小学校」（90.9%）が最も多く、次いで「家庭」（89.9%）、「お住まいの地域」（40.8%）の順に多くなっています。

問７　日常的に子育てに関わっている方（施設含む）

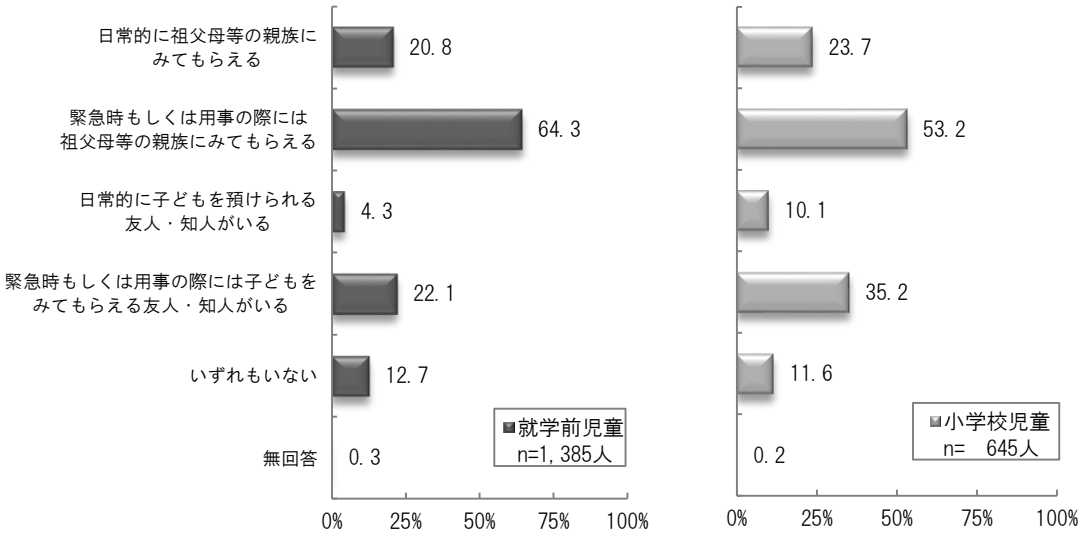


問 8[問 7]　子育てに影響を与える環境



主な親族等協力者の状況は、就学前児童、小学校児童ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」（64.3%）（53.2%）が最も多く、次いで「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」（22.1%）（35.2%）となっています。一方、「いずれもいない」は、就学前児童、小学校児童ともに１割を超えています。

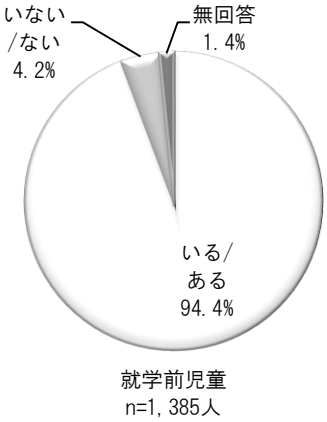
問 9[問 8]　主な親族等協力者の状況

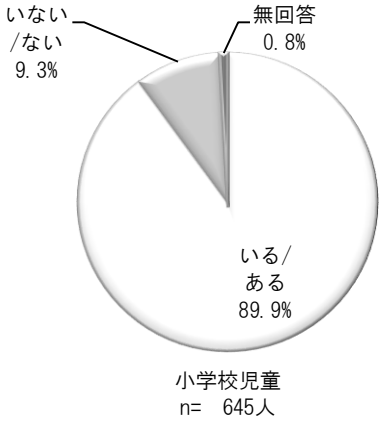


気軽に相談できる人の有無で「いる／ある」は就学前児童（94.4%）、小学校児童（89.9%）となっています。

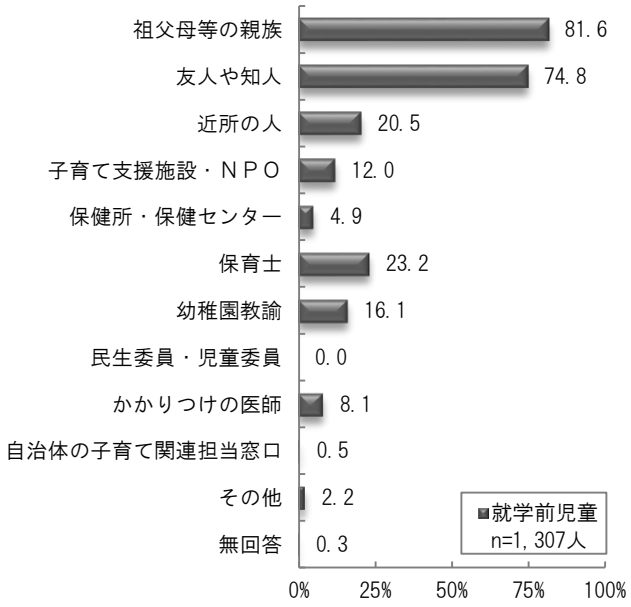
気軽に相談できる相談者は、就学前児童では「祖父母等の親族」（81.6%）が最も多く、次いで「友人や知人」（74.8%）となっています。小学校児童では「友人や知人」（83.3%）が最も多く、次いで「祖父母等の親族」（72.8%）となっています。

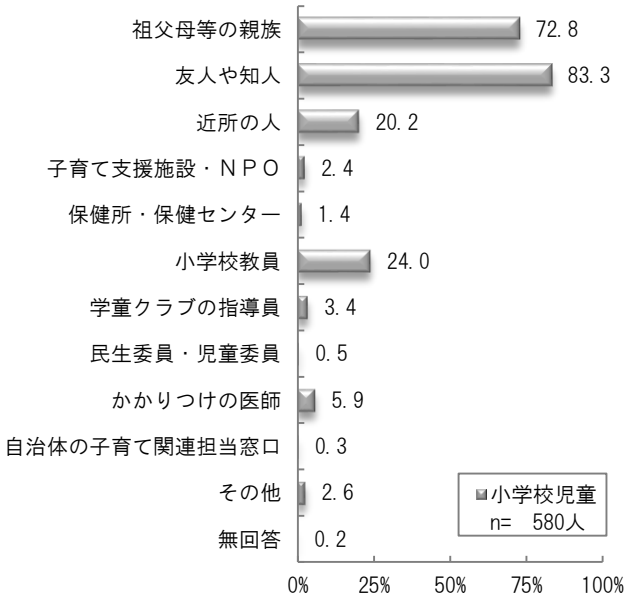
問 10[問 9]　気軽に相談できる人の有無





問 10-1[問 9-1]　気軽に相談できる相談者の状況





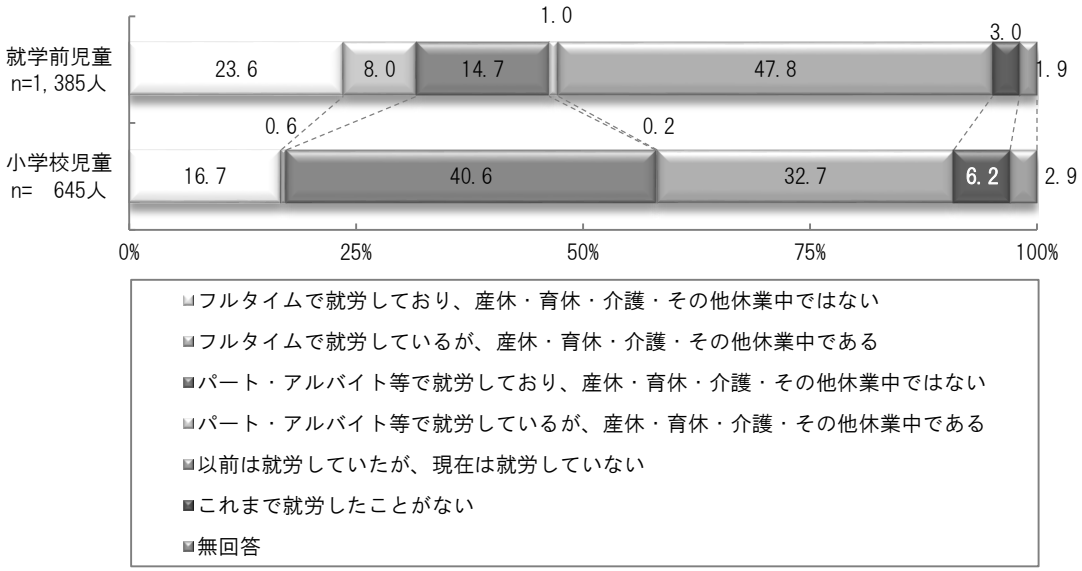
２　保護者の就労状況

（１）母親の就労状況

母親の就労状況をみると、就学前児童では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（23.6%）、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（14.7%）の方が就労し、現在産休・育休・介護・その他休業中の方が 9.0%となっています。また、現在就労していない方が 50.8%となっています。

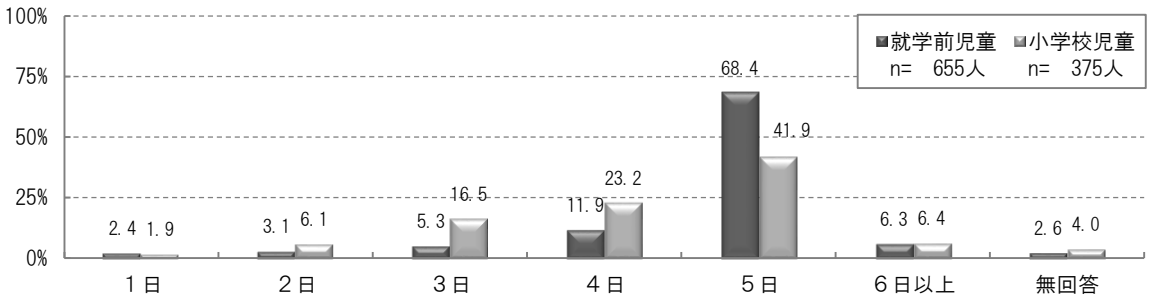
小学校児童では「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（40.6%）、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（16.7%）の方が就労し、現在産休・育休・介護・その他休業中の方が 0.8%と就学前児童と比べて大きく減少しています。また、現在就労していない方が 38.9%となっています。

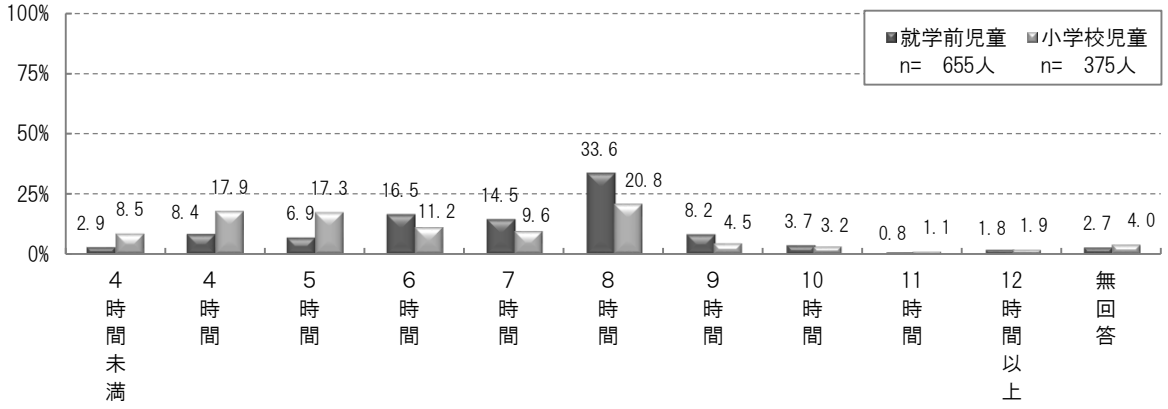
問 12(1)[問 7(1)]　母親の就労状況



母親の就労日数・就労時間をみると、就学前児童では「５日」（68.4%）、「８時間」（33.6%）、小学校児童では「５日」（41.9%）、「８時間」（20.8%）が最も多く、両者ともに「６日以上」が約 6%います。

問 12(1)-1[問 11(1)-1]　母親の就労日数（１週当たり）・就労時間（１日当たり）



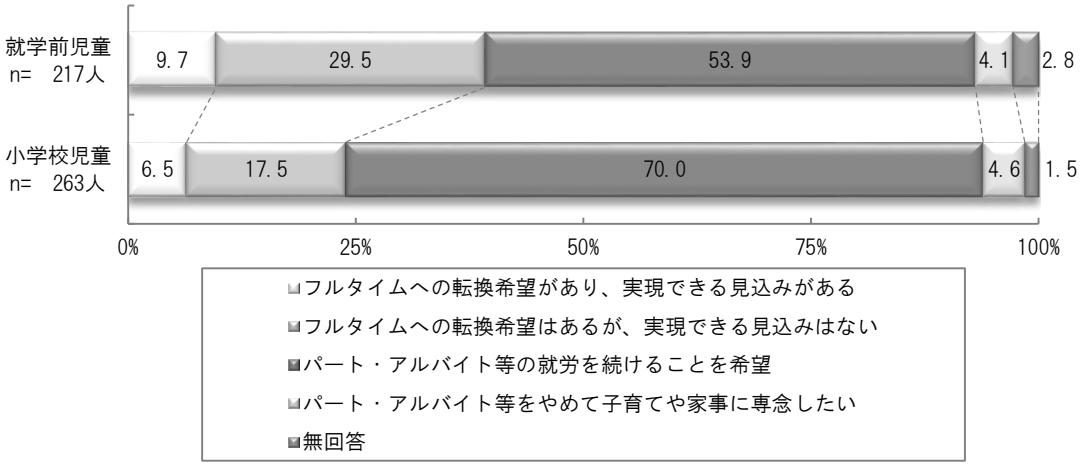


（２）母親のフルタイム就労への転換希望

母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると、就学前児童ではフルタイム勤務を希望する方は 39.2%いますが、実現できる見込みのある方は 9.7%と１割弱に留まっています。

また、小学校児童でもフルタイム勤務を希望する方は 24.0%いますが、実現できる見込みのある方は 6.5%となっています。

問 13(1)[問 12(1)]　母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向

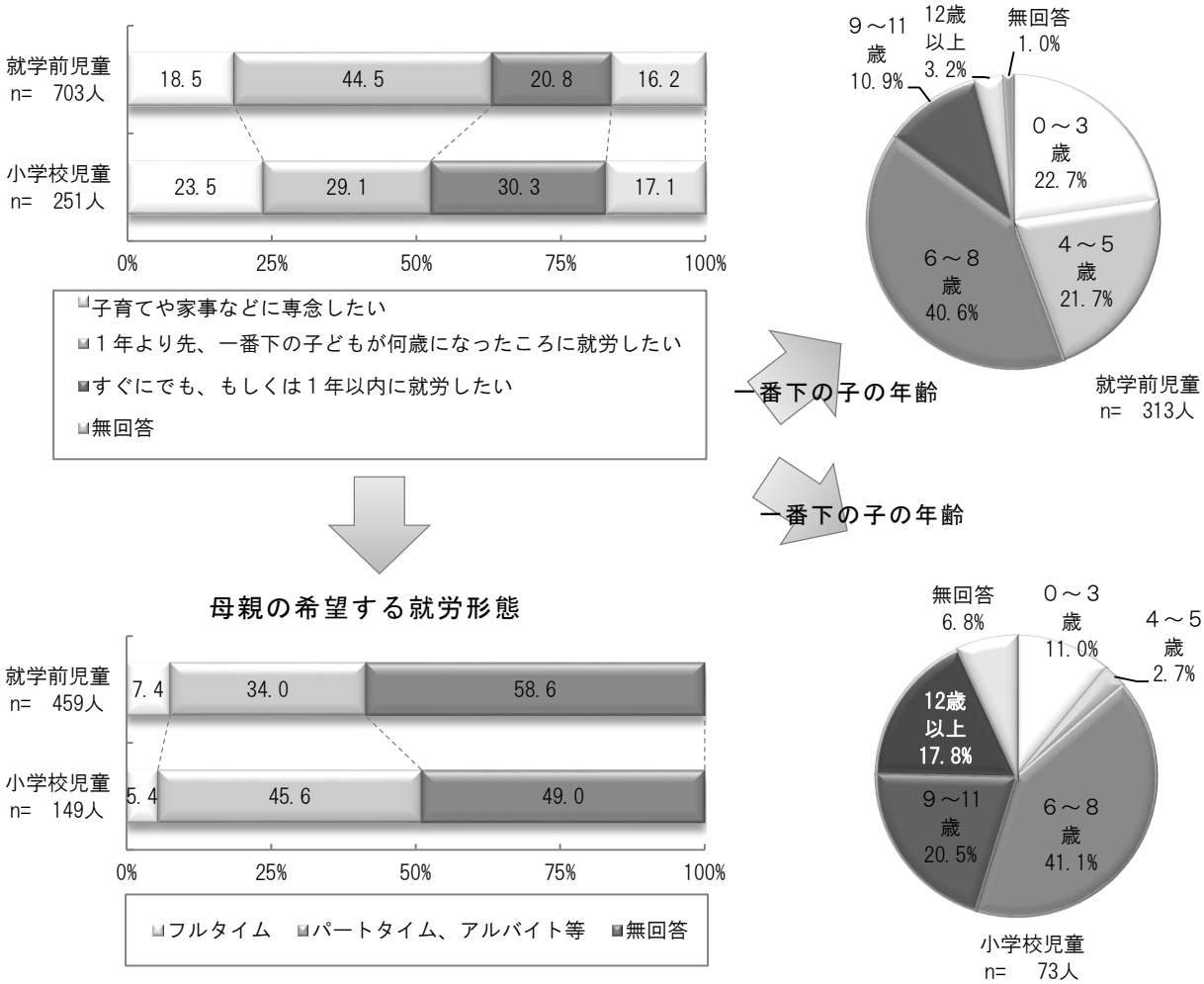


（３）未就労の母親の就労希望

就労していない母親に対して今後の就労希望を聞いたところ、就学前児童では就労したい方が 65.3%おり、その内訳は「１年より先、一番下の子どもが何歳になったころに就労したい」（44.5%）、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」（20.8%）、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」（34.0%）、「フルタイム」（7.4%）となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「6～8 歳」（40.6%）、「０～３歳」（22.7%）、「4～5 歳」（21.7%）の順となっています。

小学校児童では就労したい方が 59.4%おり、その内訳は「すぐにでも、もしくは 1 年以内に就労したい」（29.1%）、「1 年より先、一番下の子どもが何歳になったころに就労したい」（30.3%）、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」（45.6%）、「フルタイム」（5.4%）となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「６～８歳」（41.1%）、「9～11 歳」（20.5%）、「12 歳以上」（17.8%）の順となっています。

問 14(1)[問 13(1)]　就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢

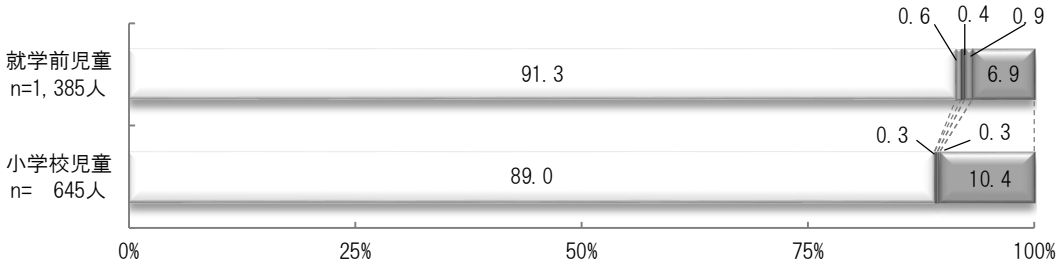


（４）父親の就労状況

父親の就労状況をみると、就学前児童では「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」（91.3%）が最も多くなっています。

小学校児童では「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」（89.0%）が就学前児童と同様に最も多くなっています。

問 12(2)[問 11(2)]　父親の就労状況

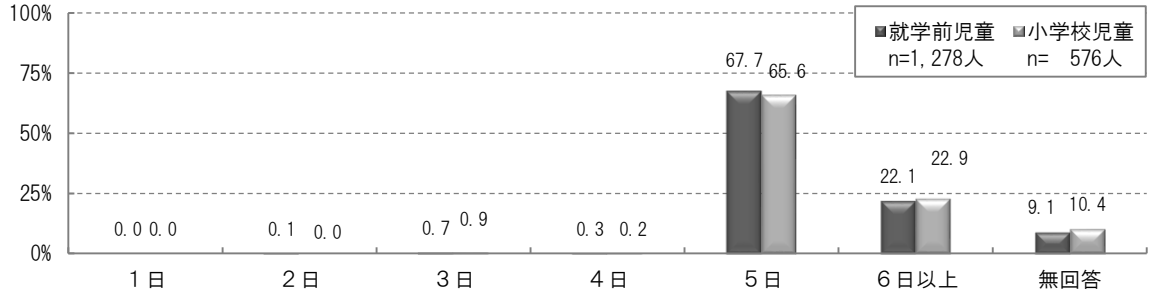


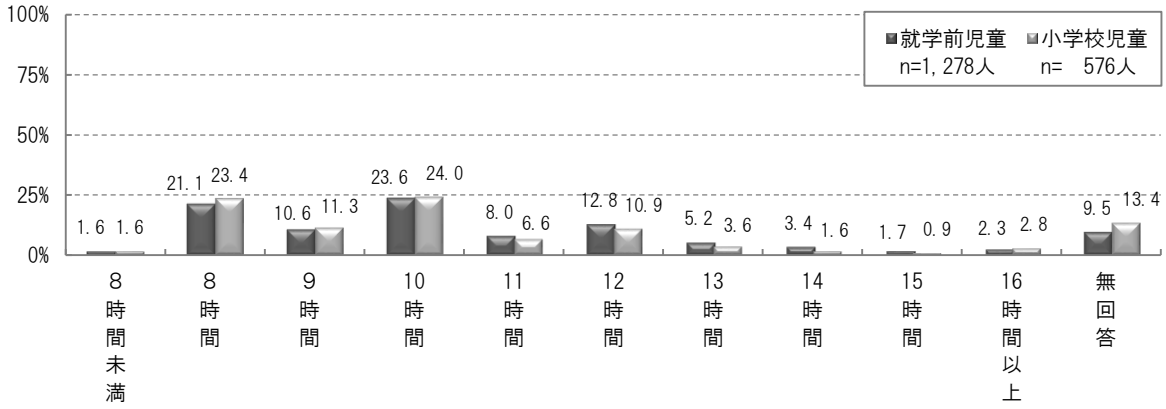
	就学前児童	小学校児童
フルタイムで就労しており、育休・介護・その他休業中ではない	91.3%	89.0%
フルタイムで就労しているが、育休・介護・その他休業中である	0.6%	－
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護・その他休業中ではない	0.4%	0.3%
パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護・その他休業中である	－	－
以前は就労していたが、現在は就労していない	0.9%	0.3%
これまで就労したことがない	－	－
無回答	6.9%	10.4%

父親の就労日数では、「５日」（就学前児童 67.7%、小学校児童 65.6%）、「６日」（就学前児童 22.1%、小学校児童 22.9%）の順に多くなっています。

就労時間では、「10 時間」（就学前児童 23.6%、小学校児童 24.0%）、「８時間」（就学前児童 21.1%、小学校児童 23.4%）の順に多くなっています。

問 12(2)-1[問 11(2)-1]　父親の就労日数（１週当たり）・就労時間（１日当たり）





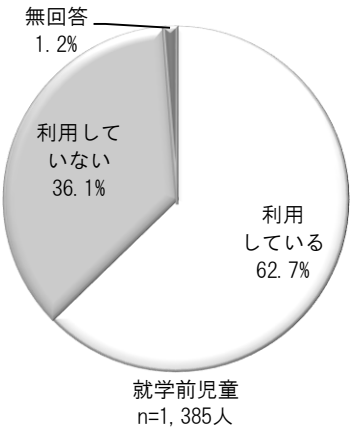
3　平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、利用している就学前児童は62.7%となっています。

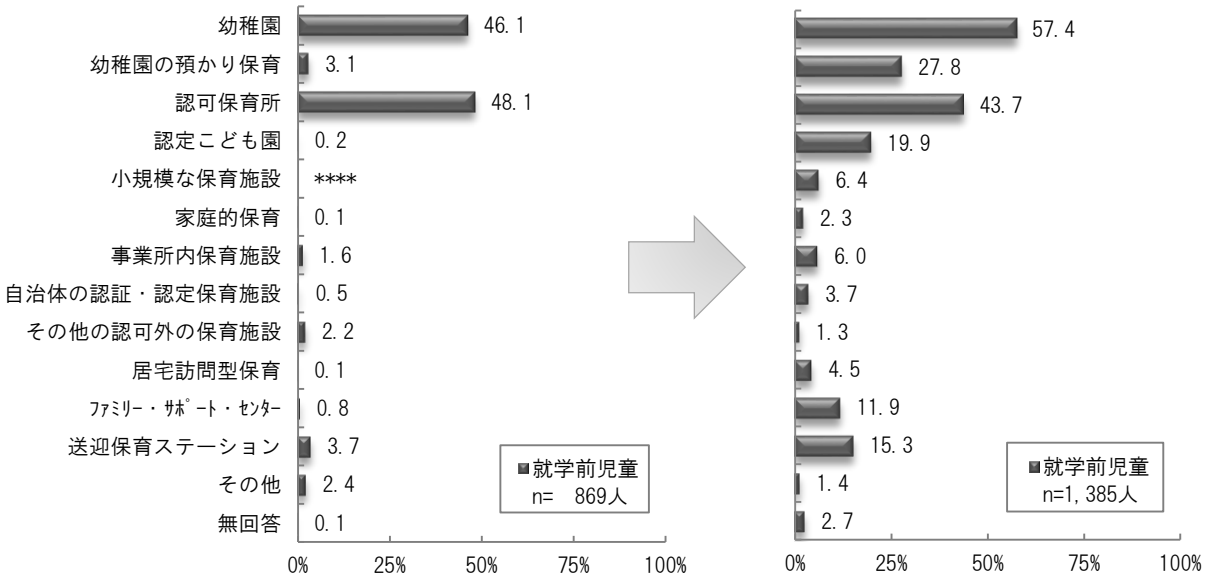
利用中の事業としては、「認可保育所」（48.1%）、「幼稚園」（46.1%）、「送迎保育ステーション」（3.7%）、「幼稚園の預かり保育」（3.1%）の順に多くなっています。

希望する事業は、「幼稚園」（57.4%）が最も多くなっています。また、「幼稚園の預かり保育」（27.8%）、「認定こども園」（19.9%）などが大きく増加しています。

問 15　定期的な教育・保育事業の利用状況



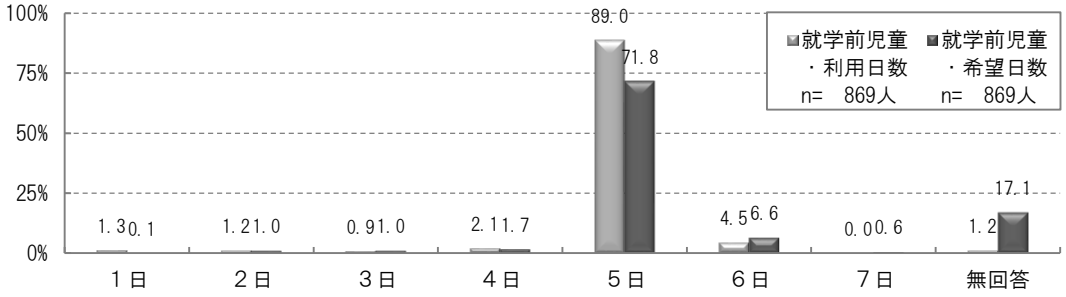
問 15-1　利用中の定期的な教育・保育事業　問 16　希望する定期的な教育・保育事業



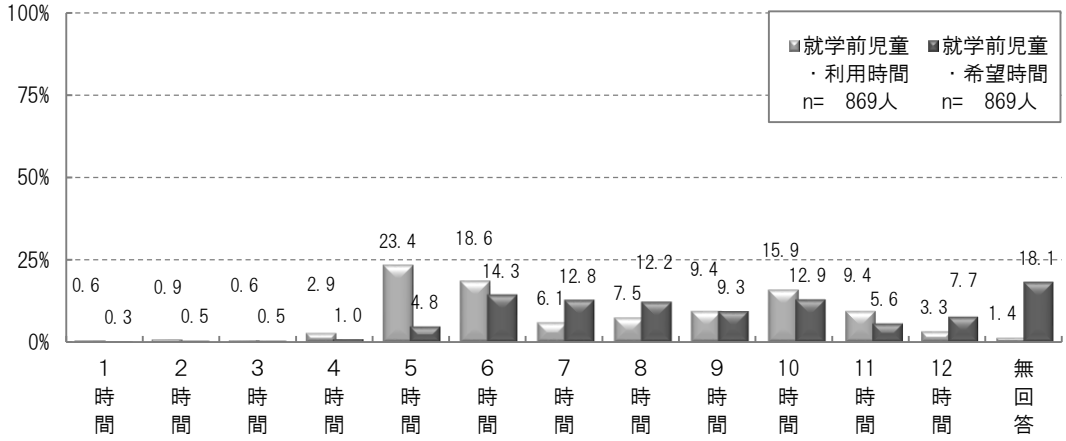
定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（１週当たり）をみると、利用では「５日」(89.0%)、「６日」(4.5%)の順に多く、希望では「５日」(71.8%)が減少した一方で「６日」（6.6%）がやや増加しています。

また、利用時間と希望時間（１日当たり）について、利用では「5 時間」（23.4%)、「6 時間」（18.6%)、「10 時間」（15.9%）の順に多くなっています。希望では「5 時間」「６時間」「10 時間」「11 時間」が減少し、「７時間」「８時間」「12 時間」が増加しています。

問 15-2(1)　定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（１週間当たり）



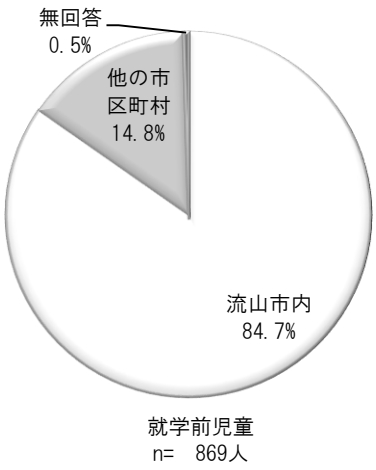
問 15-2 (1)-2　定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（１日当たり）



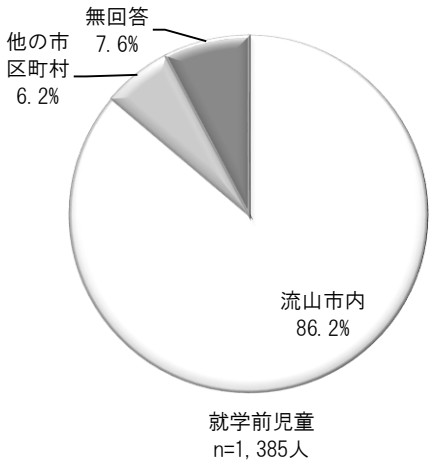
定期的な教育・保育事業の教育・保育施設の利用場所は、「流山市内」（84.7%）と回答し、ほとんどの方が市内の施設を利用しています。

希望する実施場所としては、「流山市内」（86.2%）となっています。

問 15-3　教育・保育の実施場所



問 16-1　教育・保育の希望実施場所



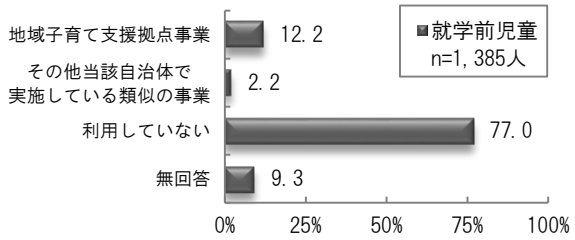
４　地域子育て支援事業の利用状況と今後の利用意向

（１）地域子育て支援拠点事業の利用について

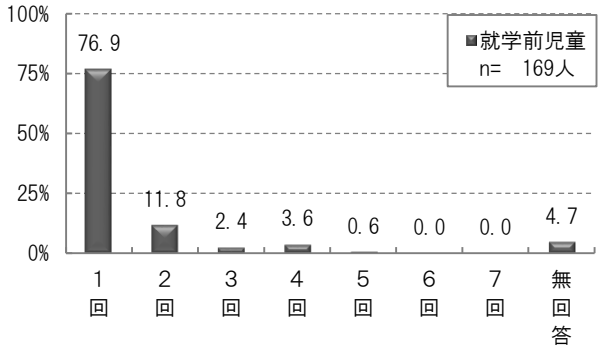
地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「地域子育て支援拠点事業」の利用者が 12.2%、その他の類似事業の利用者が 2.2%となっています。

地域子育て支援拠点事業の利用回数（1 週当たり）は、「1 回」（76.9%）が最も多く、次いで「２回」（11.8%）、「４回」（3.6%）の順になっています。

問 17　地域子育て支援拠点事業の利用状況



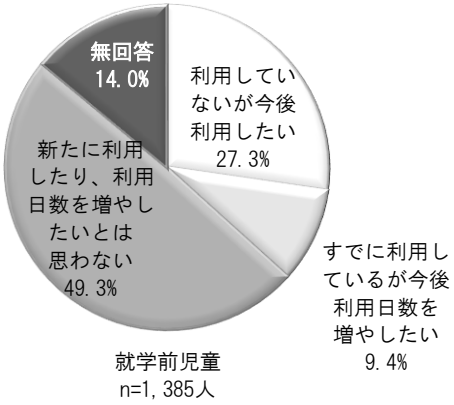
問 17.1　地域子育て支援拠点事業の利用回数（１週当たり）



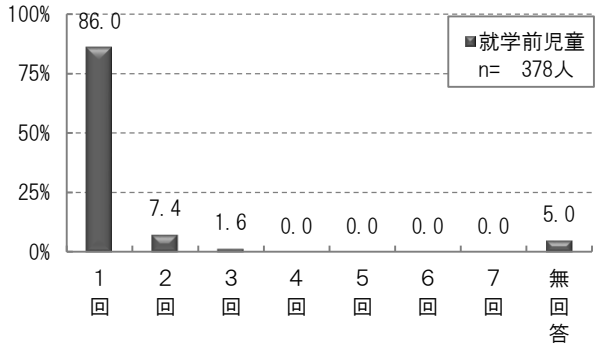
今後の利用希望は、「利用していないが今後利用したい」（27.3%）、「すでに利用しているが今後利用日数を増やしたい」（9.4%）となっています。

未利用者の希望利用回数（１週当たり）は、「１回」（86.0%）が最も多くなっています。また、利用者の増やしたい利用回数（１週当たり）は、就学前児童で「１回」（61.5%）、「２回」（20.8%）の順に多くなっています。

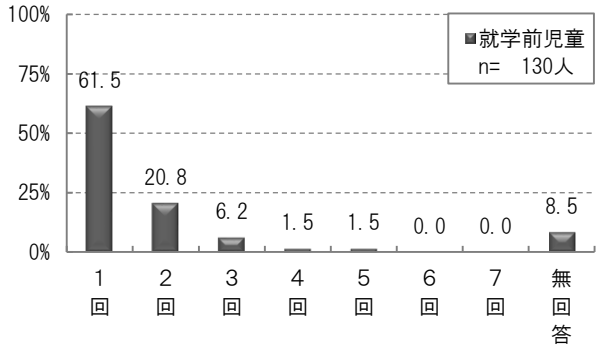
問 18　今後の利用希望



問 18.1　未利用者の希望利用回数（１週当たり）



問 18.2　利用者の増やしたい利用回数（１週当たり）

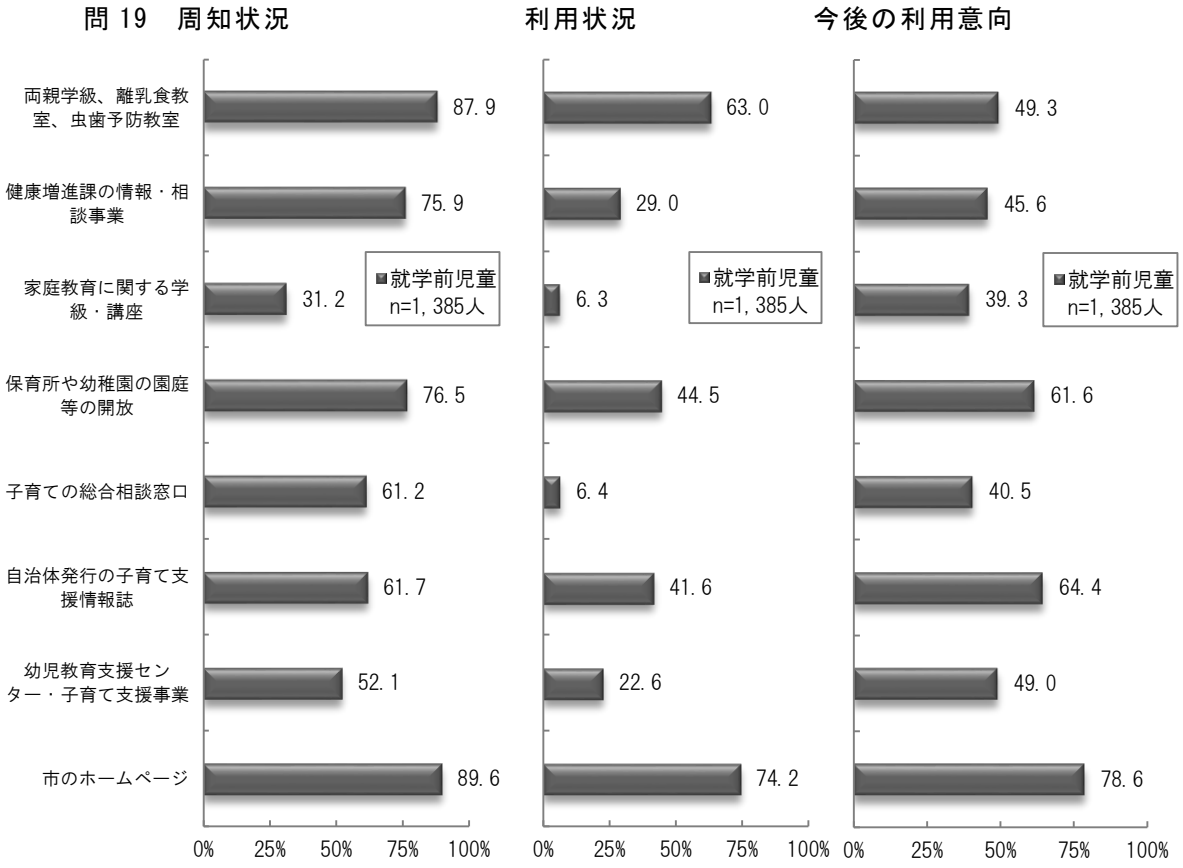


（２）子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

子育て支援事業の周知度をみると、就学前児童では「市のホームページ」（89.6%）、「両親学級・離乳食教室・むし歯予防教室」（87.9%）、「保育所や幼稚園の園庭等の解放」（76.5%）が上位を占めています。

周知度が高くて利用が少ない事業は、「子育ての総合相談窓口」（6.4%）、「家庭教育に関する学級・講座」（6.3%）などがあげられます。

今後の利用希望が多い事業は、「市のホームページ」（78.6%）が最も多く、「自治体発行の子育て支援情報誌」「保育所や幼稚園の園庭等の開放」も６割を超えて多くなっています。



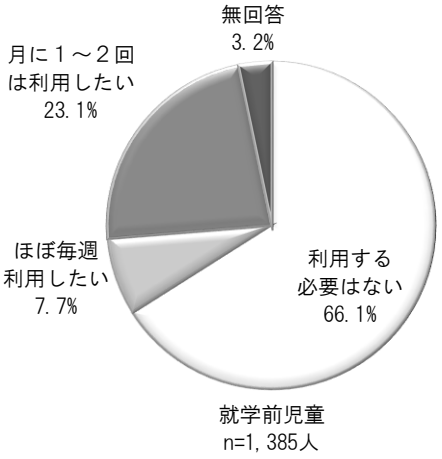
５　休日の教育・保育事業の利用意向

土曜日の利用希望は、「月に 1～2 回は利用したい」（23.1%）、「ほぼ毎週利用したい」（7.7%）となっています。

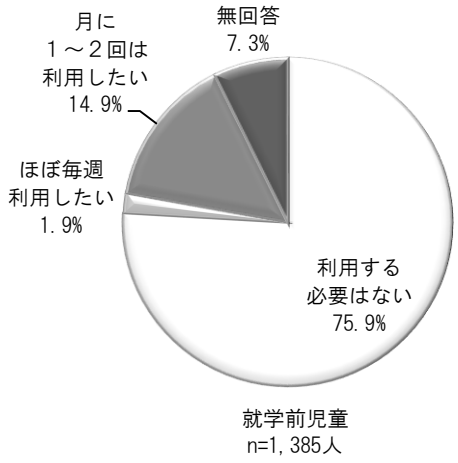
日曜・祝日の利用希望は、「月に 1～2 回は利用したい」（14.9%）、「ほぼ毎週利用したい」（1.9%）となっています。

長期休暇中において教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）は、「休みの期間中、週に数日利用したい」（45.1%）、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（9.7%）となっています。

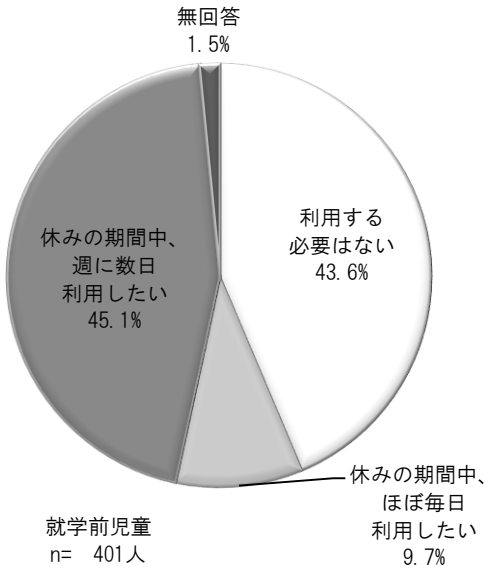
問 21(1)　土曜日の利用希望



問 21(2)　日曜・祝日の利用希望



問 22　長期休暇中の教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）

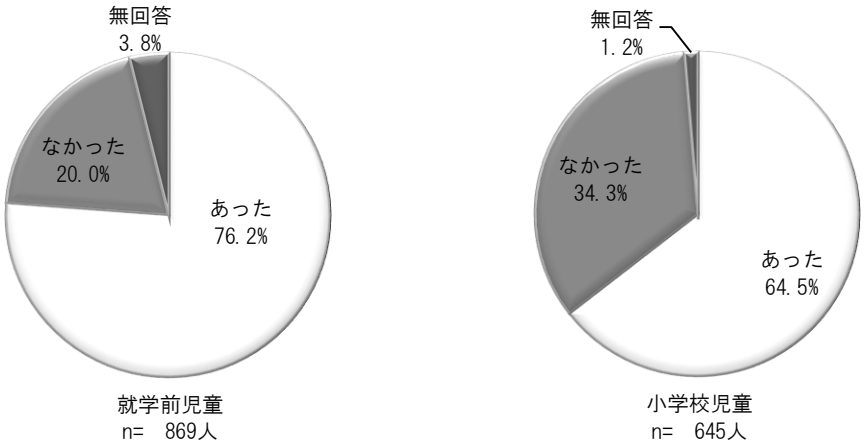


６　病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

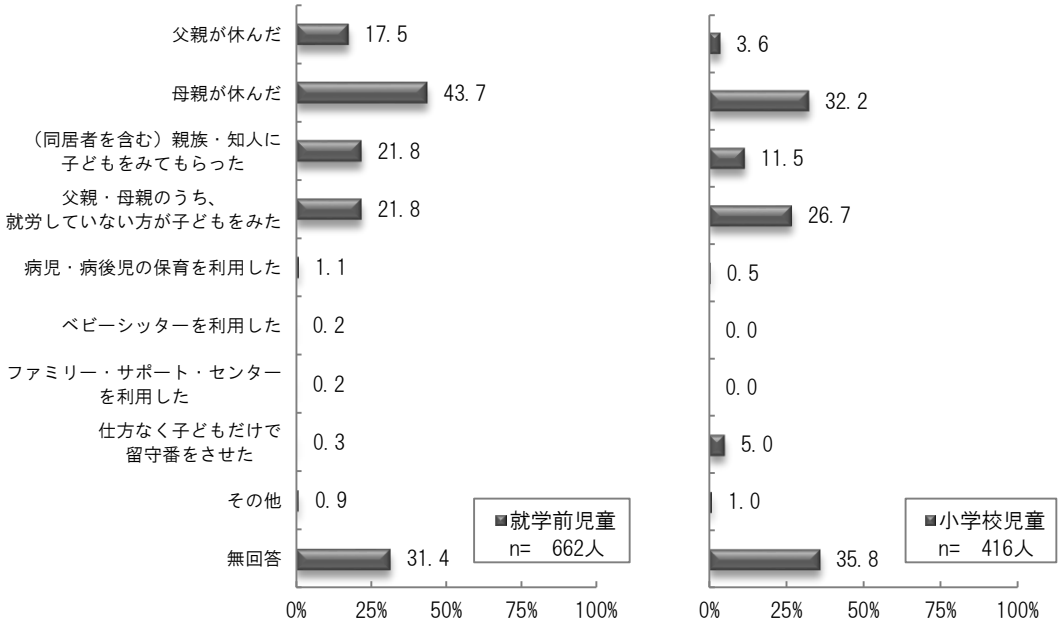
就学前児童の保護者の 76.2%の方が、病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった体験をしています。その際の対処方法は、「母親が休んだ」（43.7%）、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」「父親・母親のうち、どちらか就労していない方が子どもをみた」（各 21.8%）、「父親が休んだ」（17.5%）の順に多くなっています。

小学校児童では、64.5%の方が、病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった体験をしています。その際の対処方法は、「母親が休んだ」（32.2%）、「父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた」（26.7%）、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（11.5%）の順に多くなっています。

問 24[問 21]　病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無



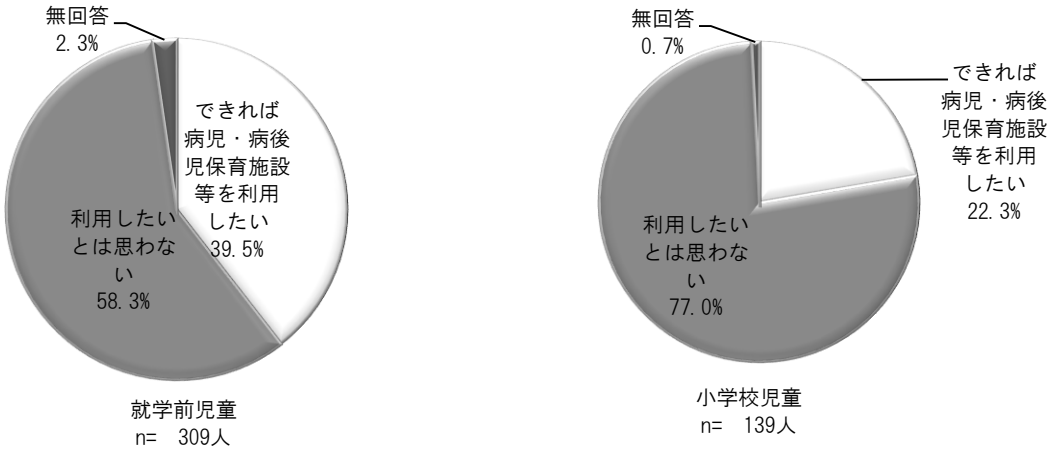
問 24-1[問 21-1]　この１年間の対処方法



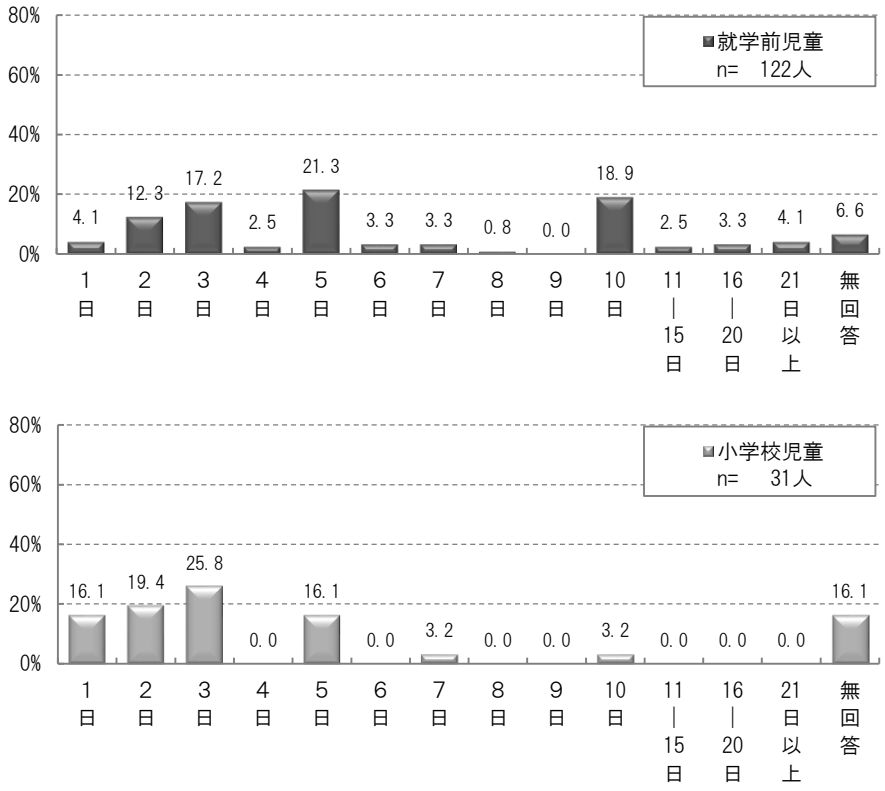
父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、就学前児童では 39.5%の方が利用を希望し、その利用希望日数は「５日」（21.3%）、「10 日」（18.9%）の順に多くなっています。

小学校児童では、22.3%の方が利用を希望し、その利用希望日数は、「３日」（25.8%）、「２日」（19.4%）の順に多くなっています。

問 24-2[問 21-2]　父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設利用意向

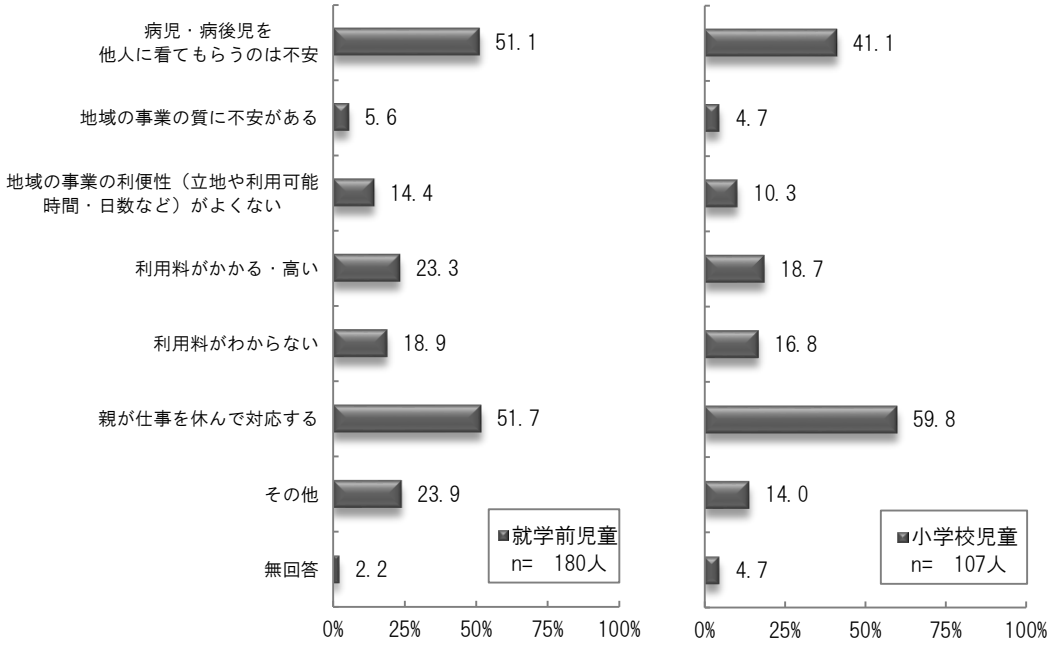


問 24-2.1[問 21-2.1]　子どもを預ける場合の望ましい希望日数（年間）



利用意向のない方の理由としては、就学前児童、小学校児童とも「親が仕事を休んで対応する」（51.7%）（59.8%）が最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（51.1%）（41.1%）となっています。

問 24-4[問 21-4]　病児・病後児のための保育施設利用意向のない方の理由



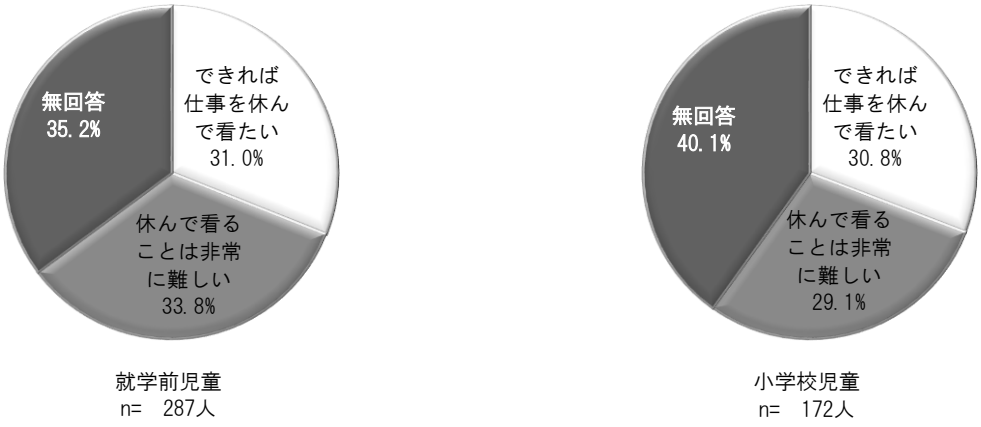
父母が休む以外の対処方法を選んだ方に対して「父母が休んで看たい」という意向をみると、就学前児童では「できれば仕事を休んで看たい」（31.0%）、「休んで看ることは非常に難しい」（33.8%）となっています。

小学校児童では「できれば仕事を休んで看たい」（30.8%）、「休んで看ることは非常に難しい」（29.1%）となっています。

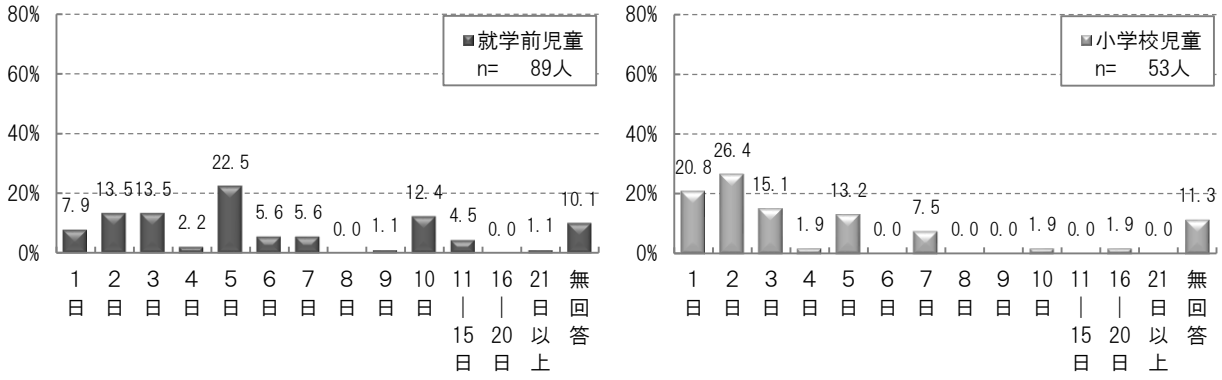
父母が休んで看たい希望日数は、就学前児童では「5 日」（22.5%）、「2 日」「3 日」（各 13.5%）、「10 日」（12.4%）の順に多くなっています。

小学校児童では、「2 日」（26.4%）、「1 日」（20.8%）、「3 日」（15.1%）の順に多くなっています。

問 24-5[問 21-5]　父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が休んで看たい」意向



問 24-5.1[問 21-5.1]　「父母が休んで看たい」希望日数

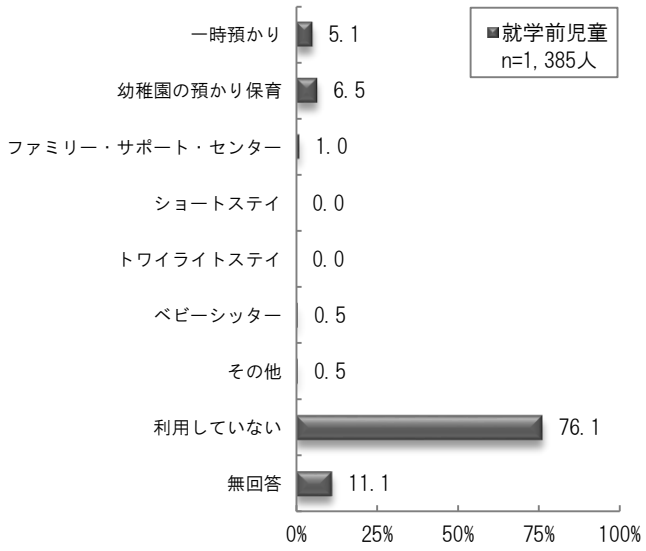


7　不定期の一時保育の利用について

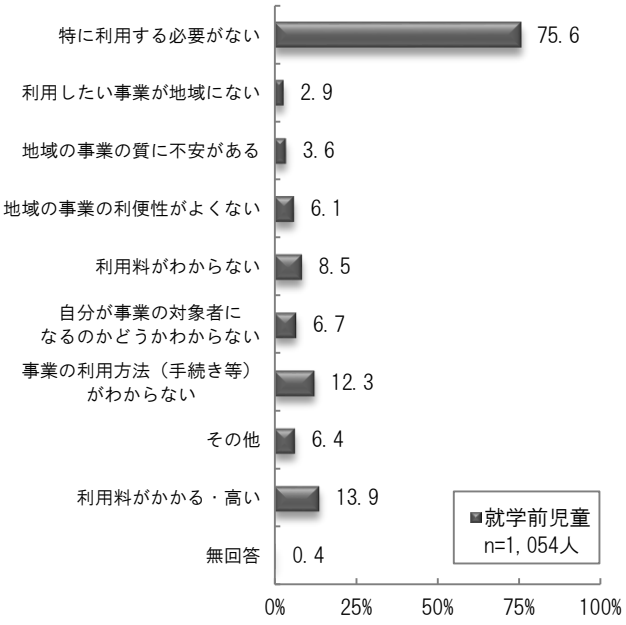
就学前児童の不定期の一時預かり等の利用状況をみると、「幼稚園の預かり保育」（6.5%）、「一時預かり」（5.1%）となっています。

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」（75.6%）、「利用料がかかる・高い」（13.9%）、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」（12.3%）の順に多くなっています。

問 25　不定期の一時預かり等事業の利用状況



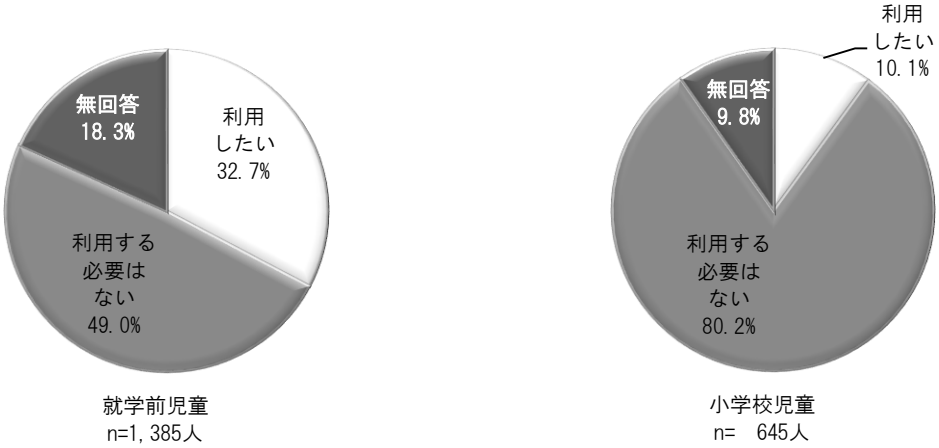
問 25-1　一時預かり等を利用していない理由



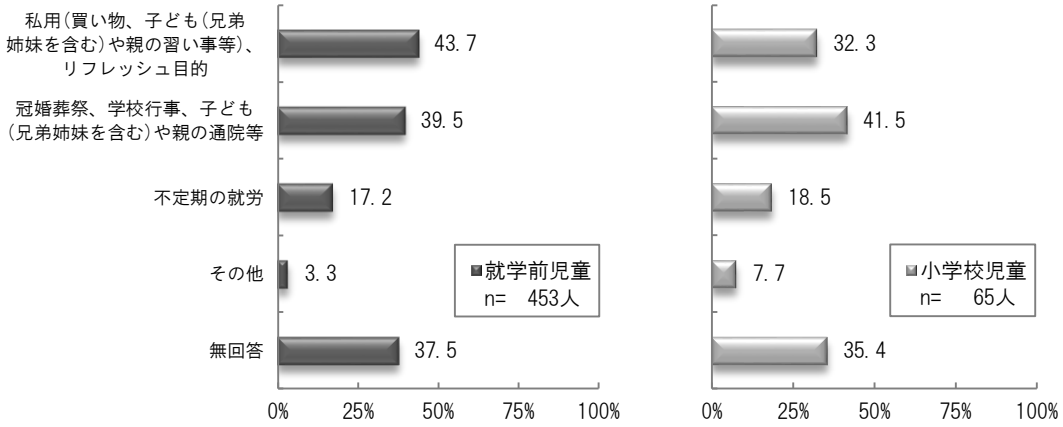
不定期の一時預かり等の利用希望とその目的は、就学前児童では「利用する必要はない」（49.0%）、「利用したい」（32.7%）となっています。利用したい方の利用目的は、「私用、リフレッシュ目的」（43.7%）、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」（39.5%）、「不定期の就労」（17.2%）の順に多くなっています。

小学校児童では、「利用する必要はない」（80.2%）、「利用したい」（10.1%）となっています。利用したい方の利用目的は、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」（41.5%）、「私用、リフレッシュ目的」（32.3%）、「不定期の就労」（18.5%）の順に多くなっています。

問 26[問 23]　不定期の一時預かり等の利用希望



問 26[問 23]　不定期の一時預かり等の目的



8　放課後の過ごし方について

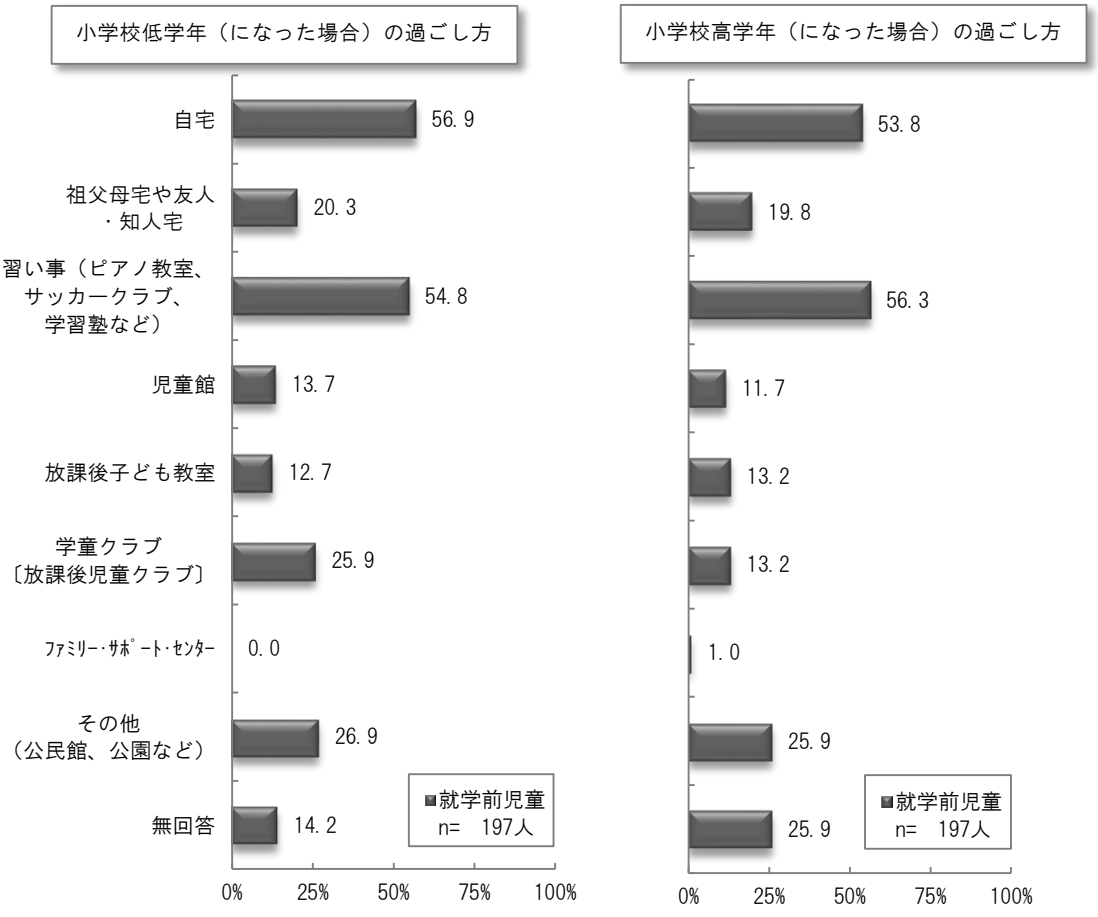
（1）平日の放課後の過ごし方について

放課後の過ごし方をみると、就学前児童では小学校低学年のうちは「自宅」（56.9%）、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（54.8%）の順に希望しています。

また、小学校高学年では「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（56.3%）、「自宅」（53.8%）となっています。

学童クラブの希望は、低学年（25.9%）、高学年（13.2%）となっています。

問 28・問 29　放課後の過ごし方の希望

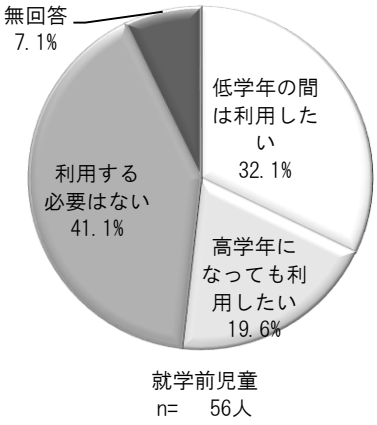


※「小学校低学年」は１～３年生、「小学校高学年」は 4～6 年生、「小学校児童」は１～６年生の意味です。

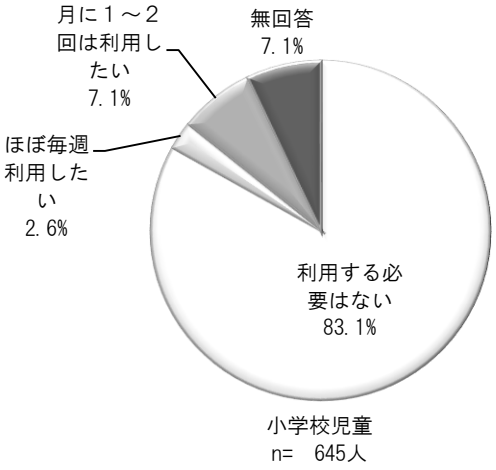
（２）土曜・休日の放課後学童クラブ利用について

学童クラブの土曜・休日の利用希望をみると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」（土曜 32.1％・休日 3.6％）、「高学年になっても利用したい」（土曜 19.6％・休日 7.1％）、「利用する必要はない」（土曜 41.1％・休日 80.4％）となっています。一方、小学校児童では「月に 1～2 回は利用したい」（土曜 7.1％・休日 6.7％）、「ほぼ毎週利用したい」（土曜 2.6％・休日 0.8％）、「利用する必要はない」（土曜 83.1％・休日 82.2％）となっています。

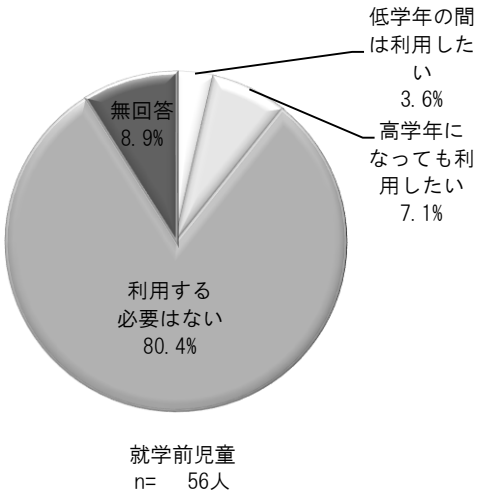
問 30(1)　土曜日の利用希望



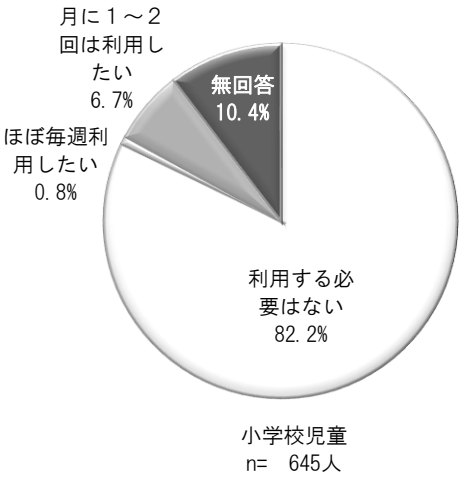
［問 16(1)］　土曜日の利用希望



問 30(2)　日曜・祝日の利用希望



［問 16(2)］　日曜・祝日の利用希望

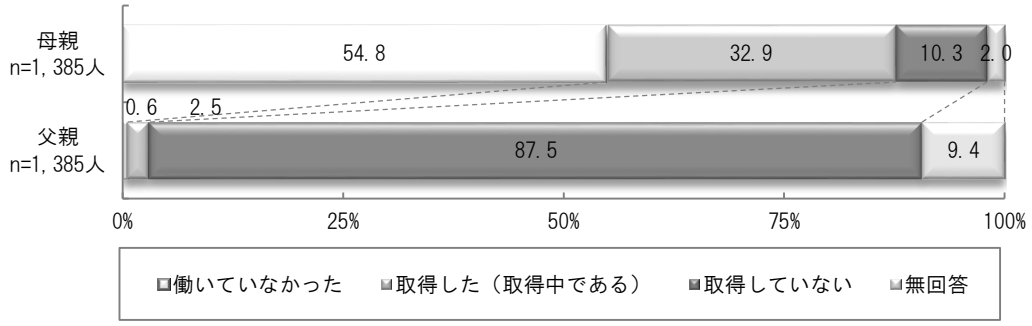


９　育児休業制度の利用状況

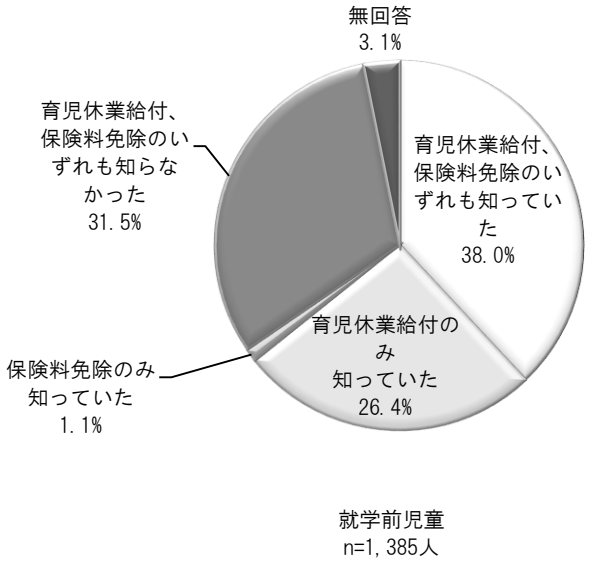
育児休業制度の利用状況をみると、母親は「取得した（取得中である）」（32.9%）に対して、父親は「取得した（取得中である）」（2.5%）となっています。

育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（38.0%）、「育児休業給付のみを知っていた」（26.4%）、「保険料免除のみを知っていた」（1.1%）となっている一方、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（31.5%）となっています。

問 32　育児休業制度の利用状況



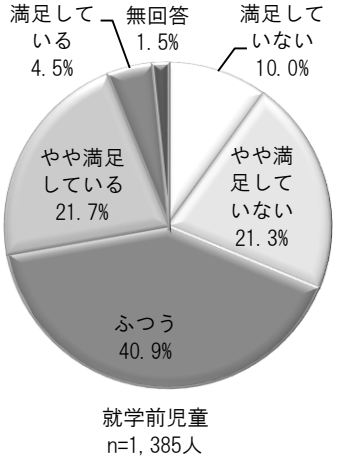
問 32-1　育児休業給付の支給と社会保険料免除の仕組みを知っている

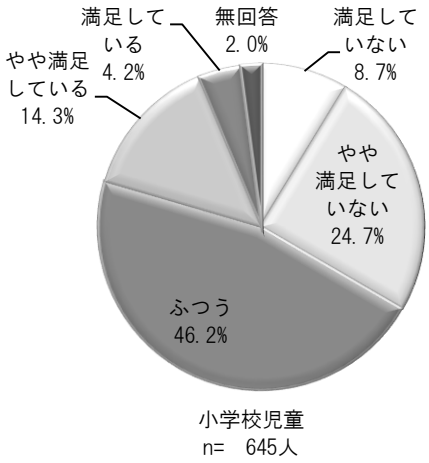


10　流山市の子育ての環境や支援への満足度

地域の子育て支援の環境や支援に対する満足度について、就学前児童では「満足」と「やや満足」の計が 26.2%、「やや満足していない」と「満足していない」の計が 31.3%で後者が 5.1%上回っています。また、小学校児童でも「満足」と「やや満足」の計が 18.5%、「やや満足していない」と「満足していない」の計が 33.4%で後者が 14.9%上回っています。

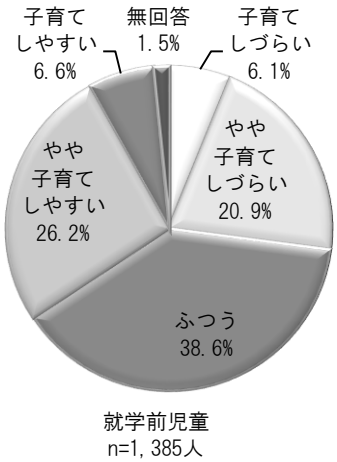
問 35［問 25］(1)　地域の子育て支援の環境や支援への満足度の状況

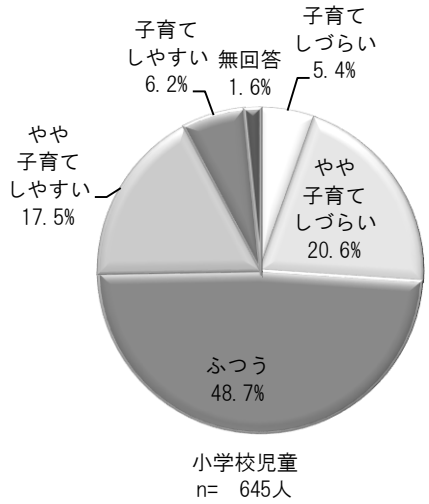




子育てしやすい街だと思うかについては、「子育てしやすい」「やや子育てしやすい」を合わせると就学前児童（32.8%）、小学校児童（23.7%）、「子育てしづらい」「やや子育てしづらい」を合わせると就学前児童（27.0%）、小学校児童（26.0%）となっています。

問 36[問 26]　子育てしやすい街だと思いますか

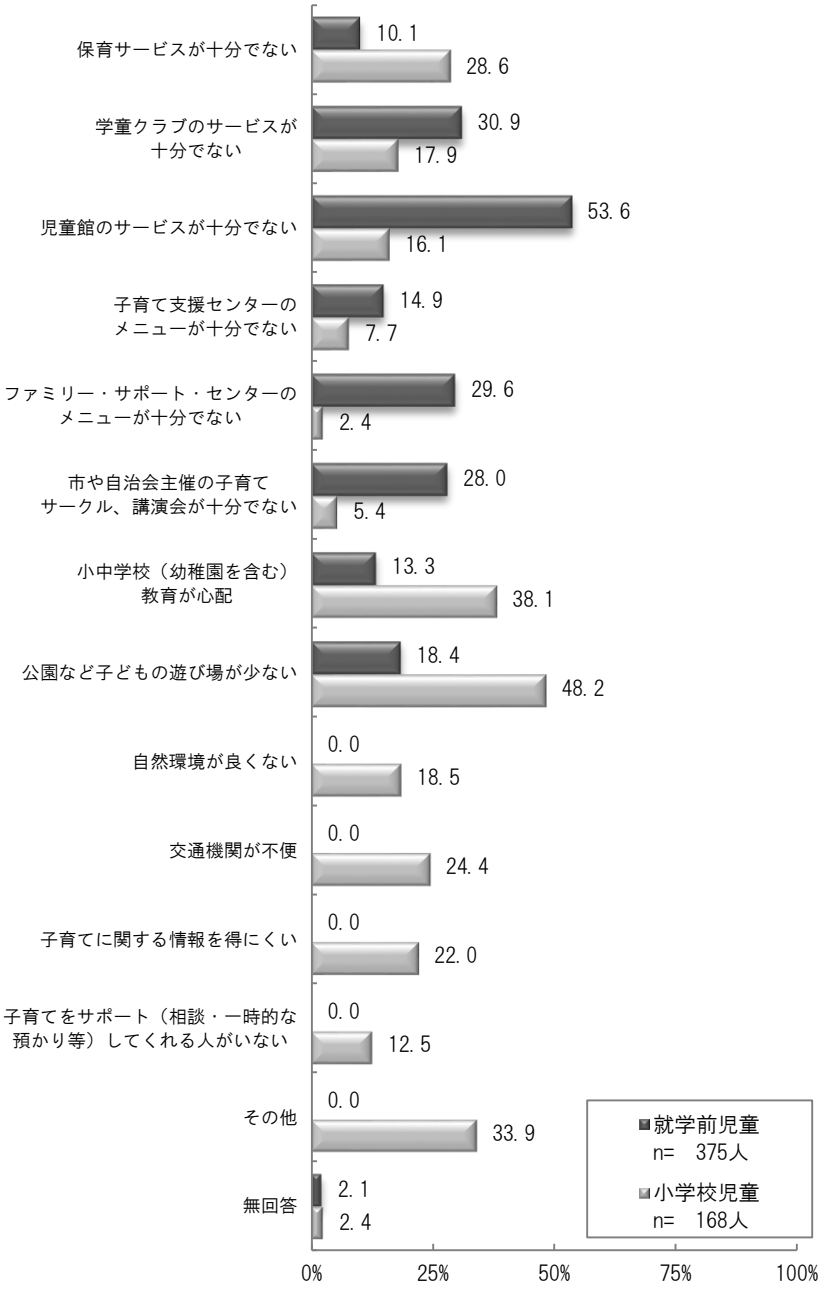
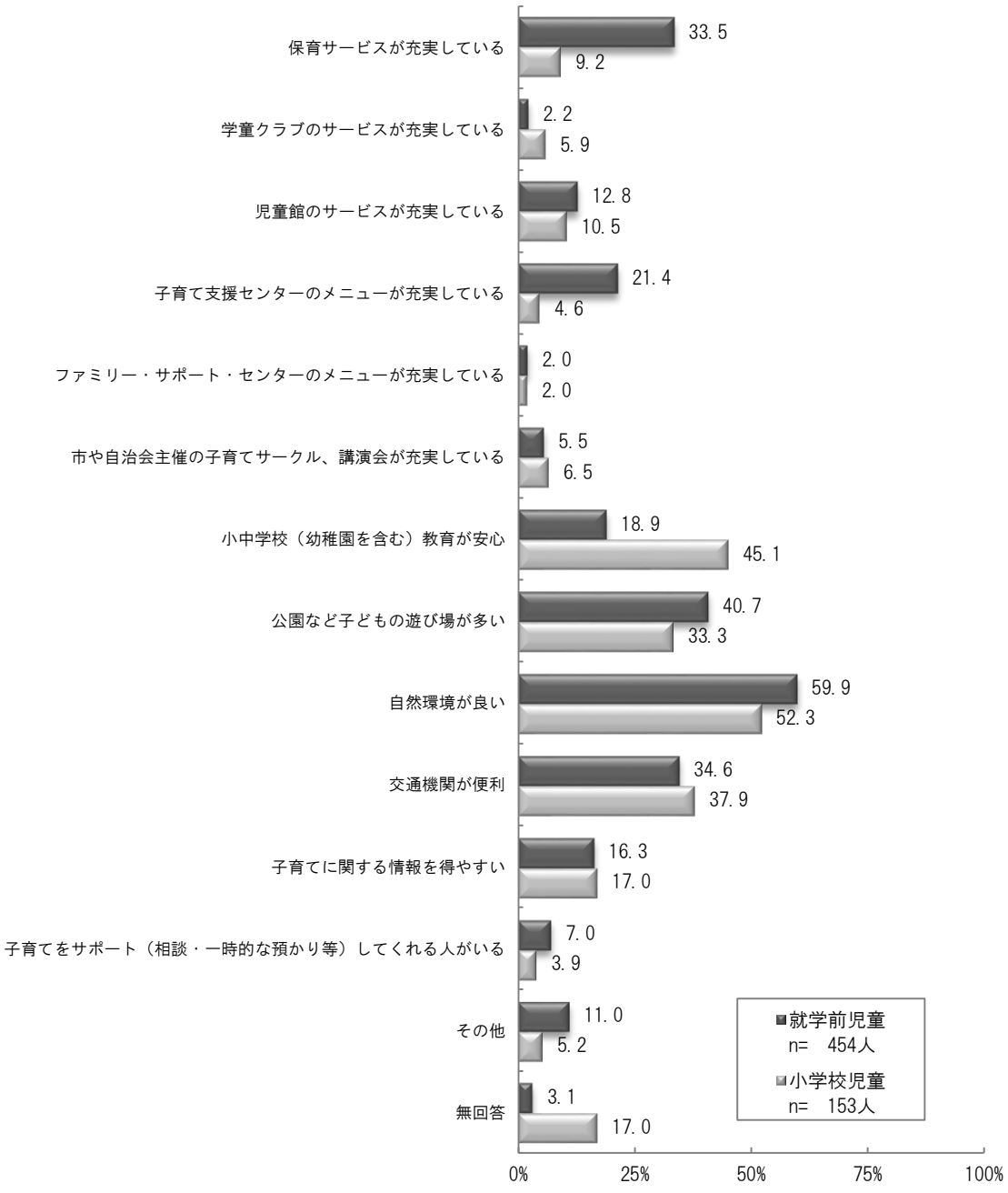




子育てしづらい理由は、就学前児童は「児童館のサービスが十分でない」（53.6%）、小学校児童は「公園など子どもの遊び場が少ない」（48.2%）が最も多くなっています。

子育てしやすい理由は、「自然環境が良い」（就学前児童 59.9%、小学校児童 52.3%）が最も多くなっており、次いで、就学前児童では「公園など子どもの遊び場が多い」（40.7%）、小学校児童では「小中学校（幼稚園を含む）の教育が安心」（45.1%）が多くなっています。

問 36-1　子育てしづらい理由



問 36-2　子育てしやすい理由